

大学院入試経験談

2017 院進 C クラス 李簡

私は、英国のマンチェスター大学の金融専攻を卒業し、2017 年 10 月 10 日に亜細亜友之会外語学院に入学し、日本での勉学生活の第一歩を踏みだしました。日本で勉強もしくは就職するのが私の夢でしたので、日本に到着して 3 日目、私は自分の未来を描きはじめました。

11 月 30 日に早稲田大学大学院亜細亜太平洋研究科の合格通知が届きました。それと同時に、就職説明会に 3 回足を運んで、日本企業と外資企業の面接では最終面接までいくことができました。

2 ヶ月の間、私はがむしゃらに勉強をしていました。朝食事をしている最中も前日の授業で学んだ単語と文法の復習をしていました。学校は朝の 9 時から始まり、放課後に当日の宿題を済ませ、大学院の入試の勉強やアルバイト探しに取り組んでいました。宿舎が学校の近くにあることのおかげで、より多くの時間を進学準備に充てることができました。週末は会社説明会の参加と就職面接の準備で埋まっていました。

私が日本語の勉強と進学の準備と就職活動を同時にできるのは、勉強の面で学校がきちんとルールを設けて学生たちに守らせる点、及び自分がきちんとプランを立てて実行した点にあります。大学院の入試を目指し、中国国内の学習環境になじみのある学生たちにとって、勉強に打ち込むことの難しさがわかるはずですが、中国国内では一生懸命学業に励む環境が乏しく、どのような毎日を過ごすかに関して、きちんと計画を立てる能力が求められます。それに、計画を立てたとしても、それが合理的なものかを判断する術もなく、無駄な努力をしてしまった学生がたくさん見受けられます。高校での勉学の場合、先生がきちんと授業のプランを立て、各生徒の進捗も熟知しています。そのため、学生が勉強に専念できる環境が整っていたと私は思います。私は日本語の勉強があまり得意ではない方でした。亜細亜友之会外語学院では、午前中 4 時間の授業を先生方のご指導の下でこなし、その後きちんと復習もしていました。しばらくして、日本語の勉強において、自分の長所と足りない部分を知ることができ、頑張る方向が見えてきました。これは、学院のきちんとしたルール作りのおかげだと思います。

授業を受けつつ、明確な方向に向かって日本語の勉強をしていました。私の場合、ただひたすら先生たちについていき、宿題をこなし、定期的に目標の達成具合を確認していました。こうして明確な目標があったからこそ、私は迷いなく頑張ることができました。先生のご指導にきちんとついていけば、最後に必ず成果が出せると感じました。

進学準備をするにあたって、周りの仲間たちとの交流も大切です。わからないことについて、学院の進学指導専門の先生方に相談を乗っていただきましょう。私も個人の面談と面接指導において、学院の先生たちは大変世話をしてくれました。そのほか、就職活動に必要な高度な日本語表現の問題やマナーについて、先生方も丁寧にご指導くださいました。学院の図書室には日本の小説もおいてあります。気分転換に活用してもらえると良いかもしれません。